

AALA ニュース 128号 ウクライナ特集号 第12弾

内容紹介

ウクライナ開戦から1年が経ちました。

この号はNo.111 ウクライナ特集号 第12弾(2022年7月6日)以来のウクライナ特集号となります。

原稿が続々と集まっていますが、ニュースとしての賞味期限もあり、9本建てで特集を組むことにします。今後必要であれば、さらに特集を検討します。

01 中満泉さん(軍縮問題上級代表)の安保理発言

2月8日の国連安保理でのブリーフィングです。日本では赤旗を除きほとんど報道されていませんが、国連事務局としての公的な意思表示として大事なものだと思います。「ウクライナを支援するための軍事装備の移転は、平和への願望を狂わせてはなりません」と訴えています。

02 プーチン大統領の年次教書演説

プーチン演説は、部分的に切りとるのではなく、一方の当事者の意思表示として正面から受け取るべきだと思います。スポーツニク紙からの要約です。

03 マンスリー・レビュー_「南の世界」から見たウクライナ戦争

記事ではまず驚きの調査結果を提示し、「5つの理由」をあげ、その原因を探っています。驚きの調査結果とは、「欧米以外の地域に住む63億人のうち、66%がロシアに、70%が中国に好感を抱いている」ということです。

「5つの理由」とは...

04 ミレー米統参議長_ウクライナ情勢は最悪だ

米国制服組トップのミレー統合参謀部議長は、ウクライナ戦争の行方についてますます悲観的になっているようです。とくにウクライナ側の主体的条件の悪化を強調しています。

05 S.ハーシュの「ノルドストリーム事件」報道_その後

その後と言っても、AALA ニュースでこの件について扱うのは初めてです。70歳以上のベトナム世代にとってS.ハーシュは伝説です。「ミライ村の虐殺」報道でピューリッツァー賞をとったベテラン記者が、またも権力の壁に挑みます。

06 The Daily Reckoning ウクライナの恐ろしい終盤戦

文末の著者紹介を見ると、ウォール街のヒーローみたいな人。テレビのコメンテーターも務め、語り口の旨さで唸らせます。